

歯を守るための公開講座

第4回

偏頭痛、肩こり、歯ぎしり、顎関節症が体を蝕む

咬み合わせとその治療



予防管理中心型歯科医療が目指すもの

病気の生じる原因に対応する事で新たな問題の発生を抑え、長期に渡り健康な状態を維持していこうという考え方です。

そしてお口の健康を良好な状態で維持する事により得られる「豊かな生活」を守っていく事です。





歯を失う4つの原因

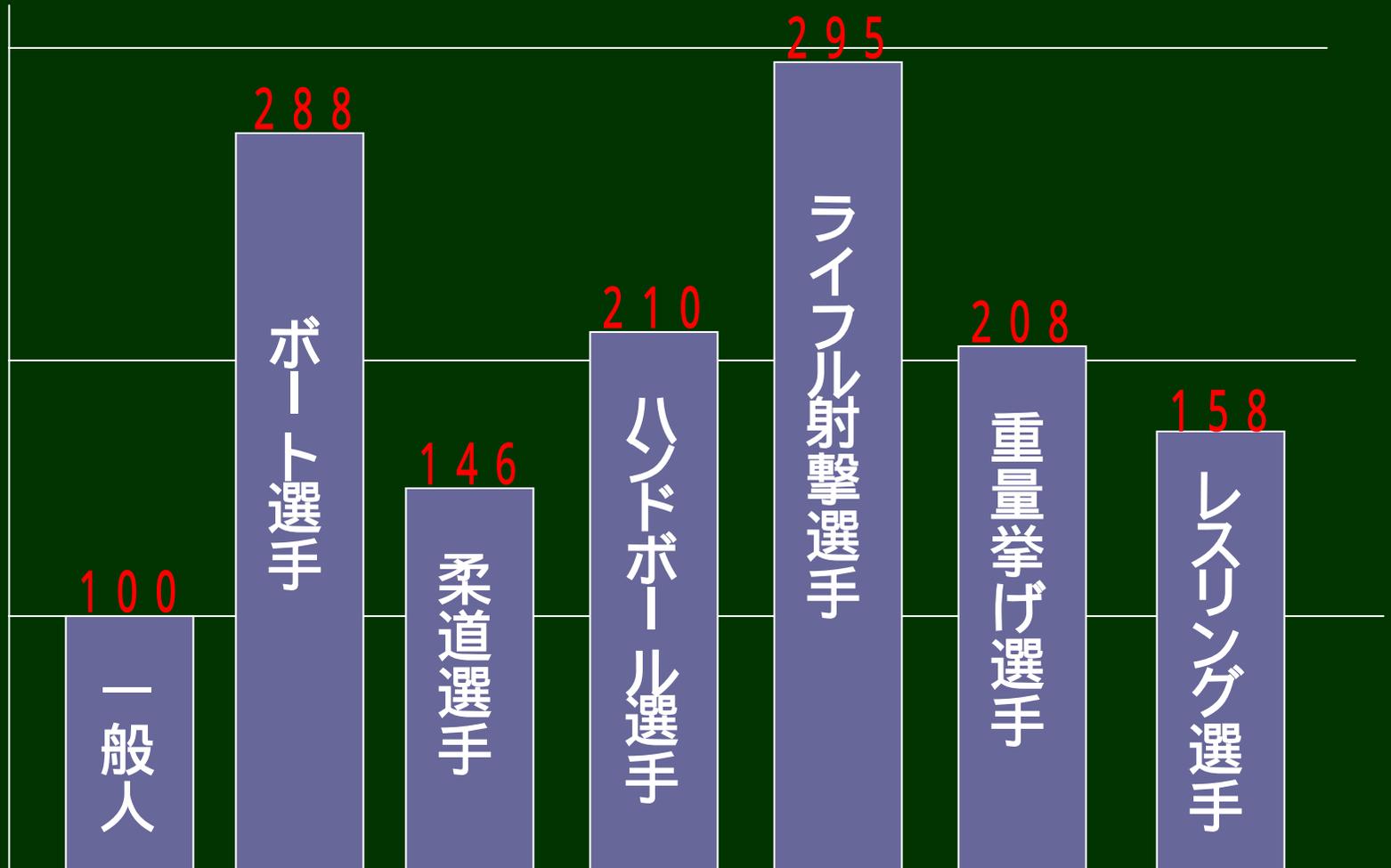
病気	原因
虫歯	細菌
歯周病	細菌
不良な治療	医療サービス
咬み合わせ	歯並び・修復物

口の健康と咬み合わせ



きちんとした咬み合わせが大きなパワーになる

スポーツごとに「咬みしめる力」くらべ

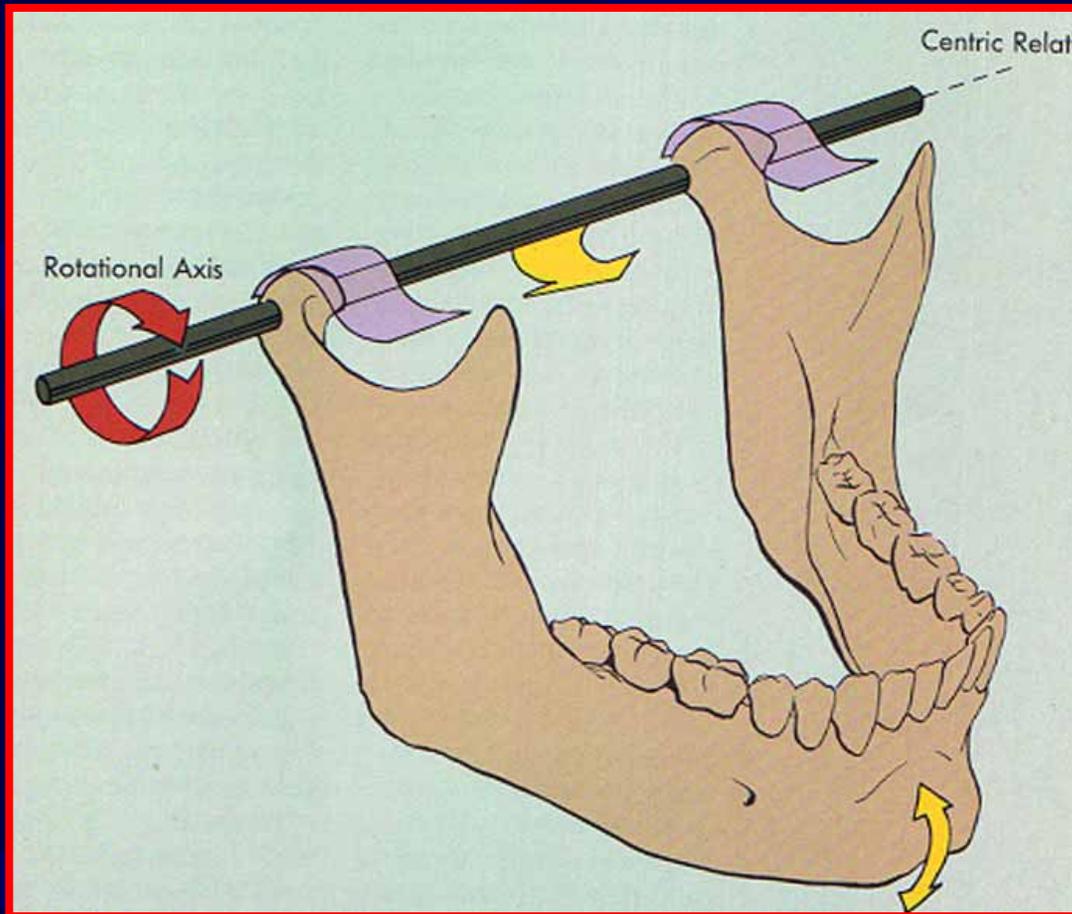


総咬合力: 一般男子を100とした場合の指数

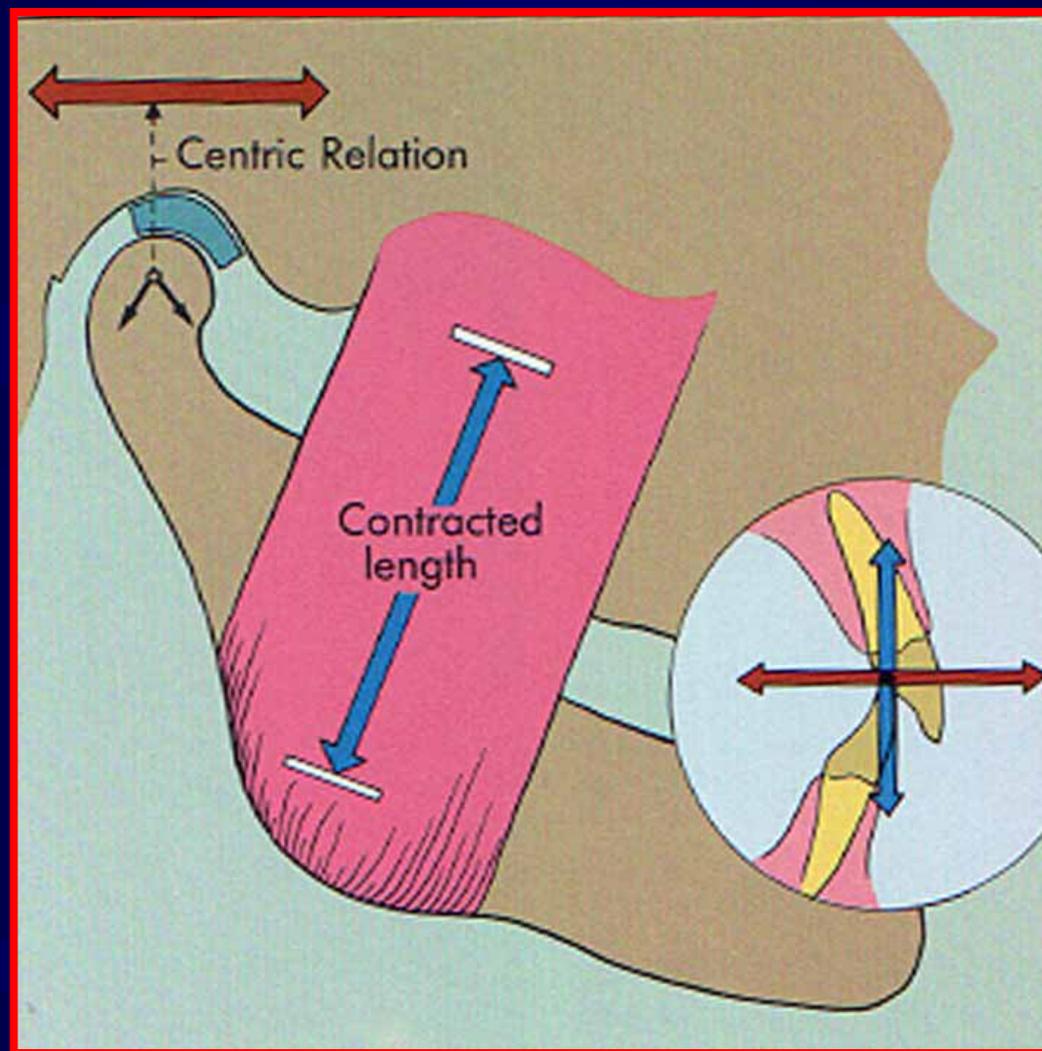
正常な咬み合わせ

1. 左右の顎の関節が正しい位置にある
2. 噛んだときは出来るだけ多くの歯が接触している
3. 歯の山が歯の平らな谷の部分と垂直に接触する
4. かみ合わせの高さは筋肉の長さに一致している
5. 上下の歯は歯の垂直方向に力を受ける
6. すり合わせて動くとき顎の動きを誘導する歯がある
7. 誘導する動きは固有の動きを妨げない
8. 顎が動くときは奥歯は接触しない

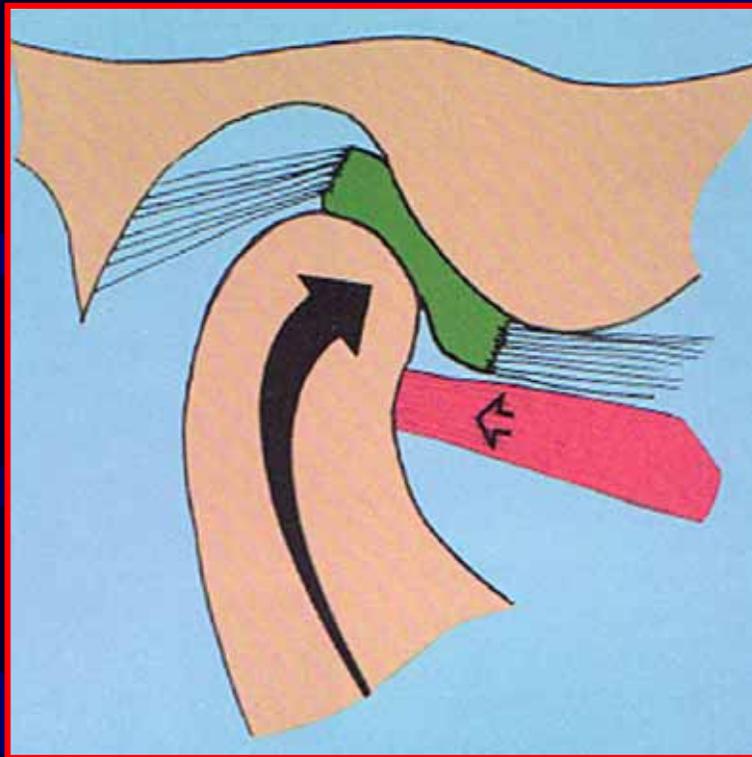
正しい顎関節の状態



正しい顎関節の状態

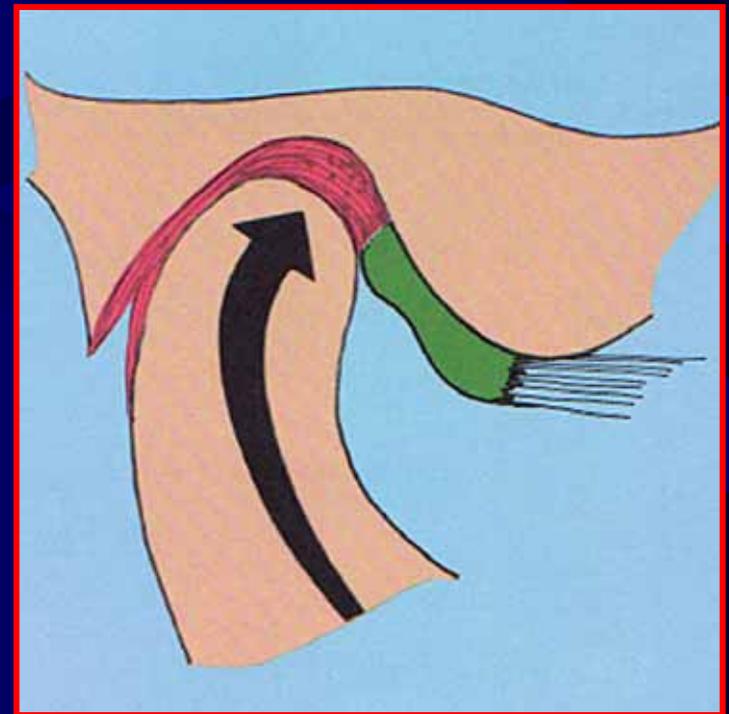


正しい顎関節の状態

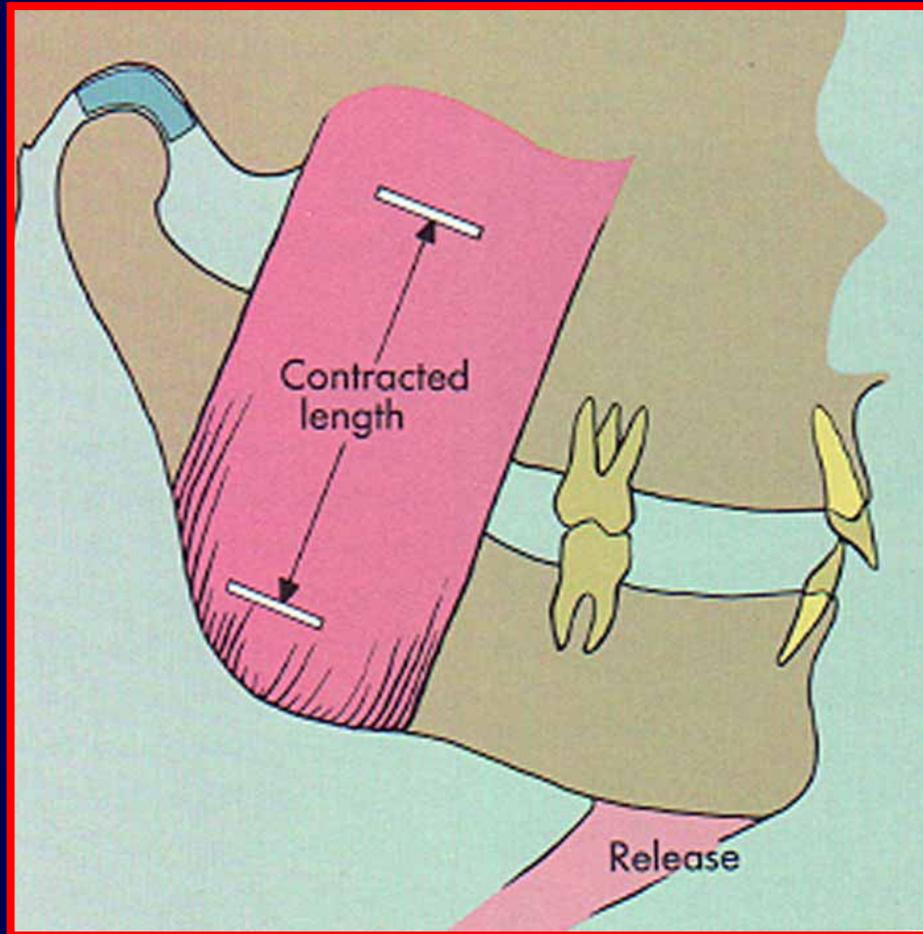


正しい関節

ずれた関節

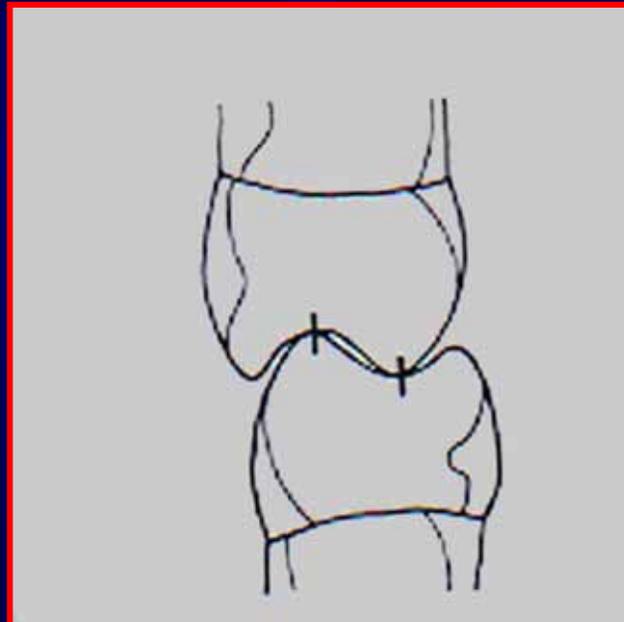
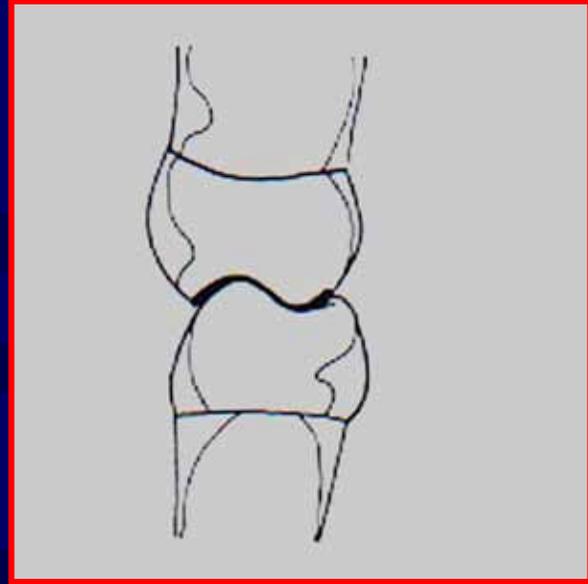
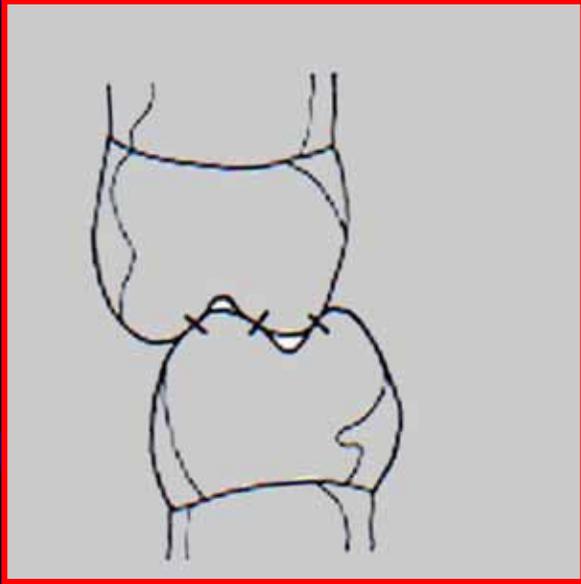


筋肉の正常な機能

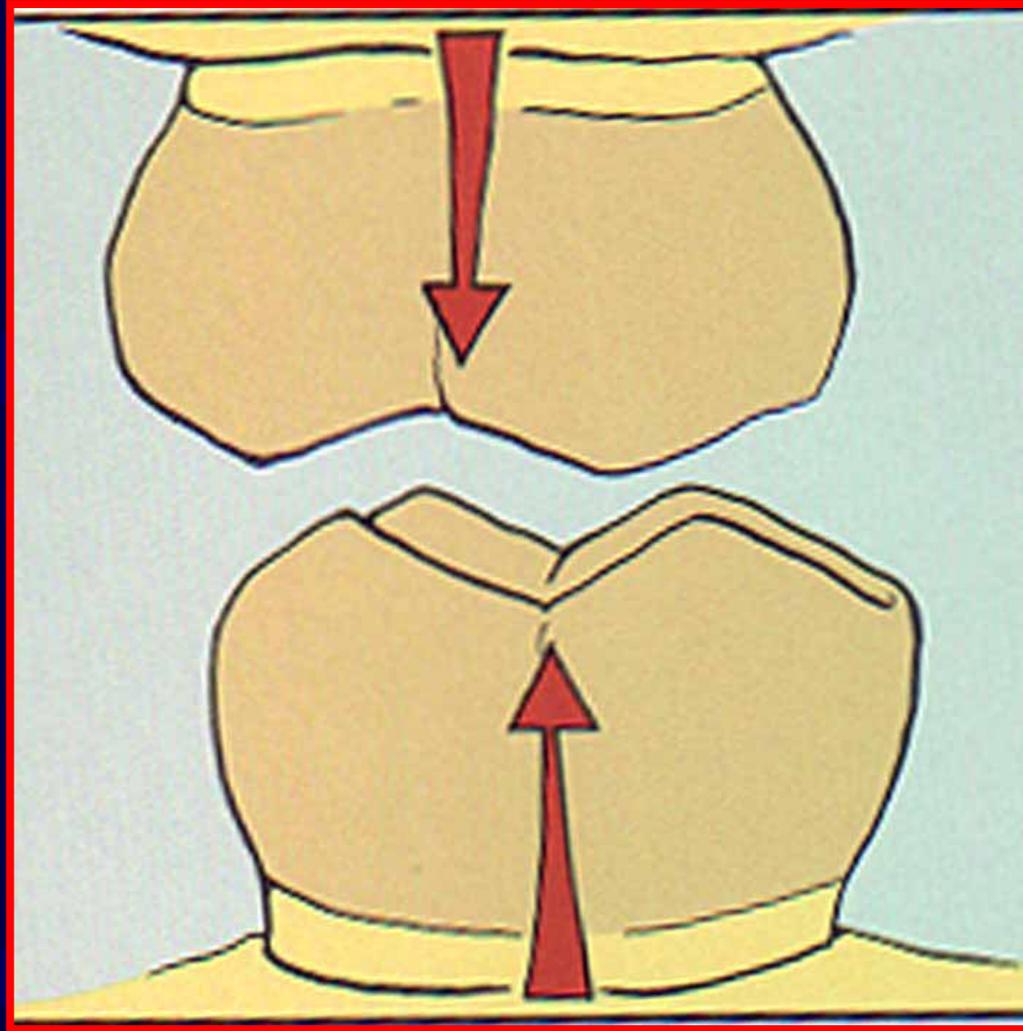


筋肉の長さとかみ合わせの高さ

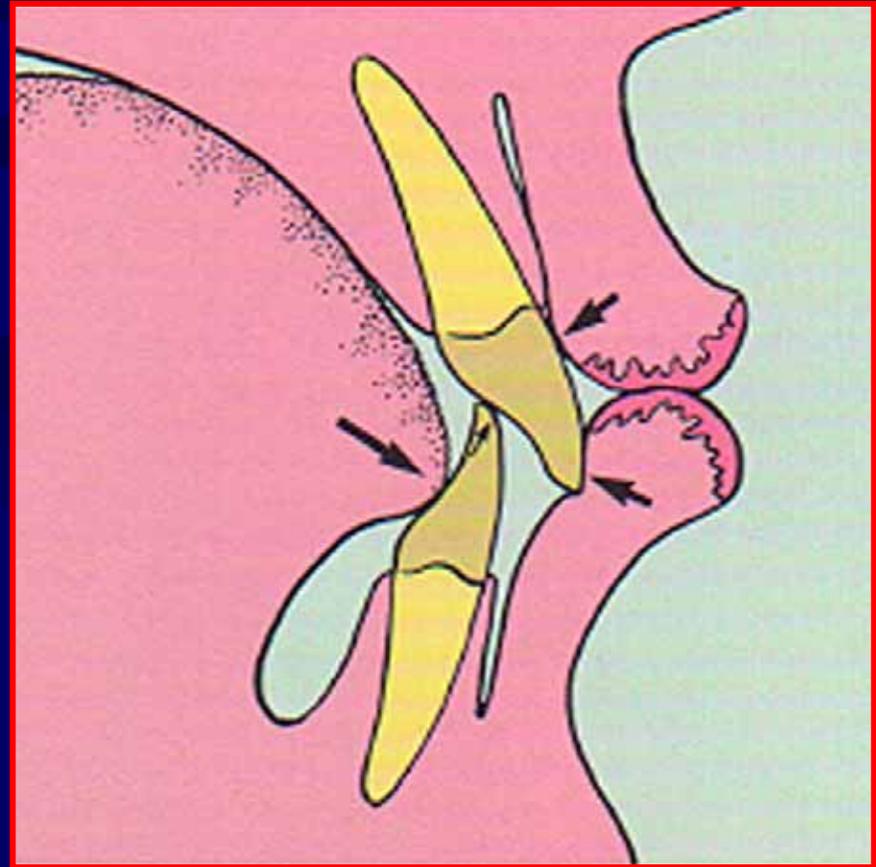
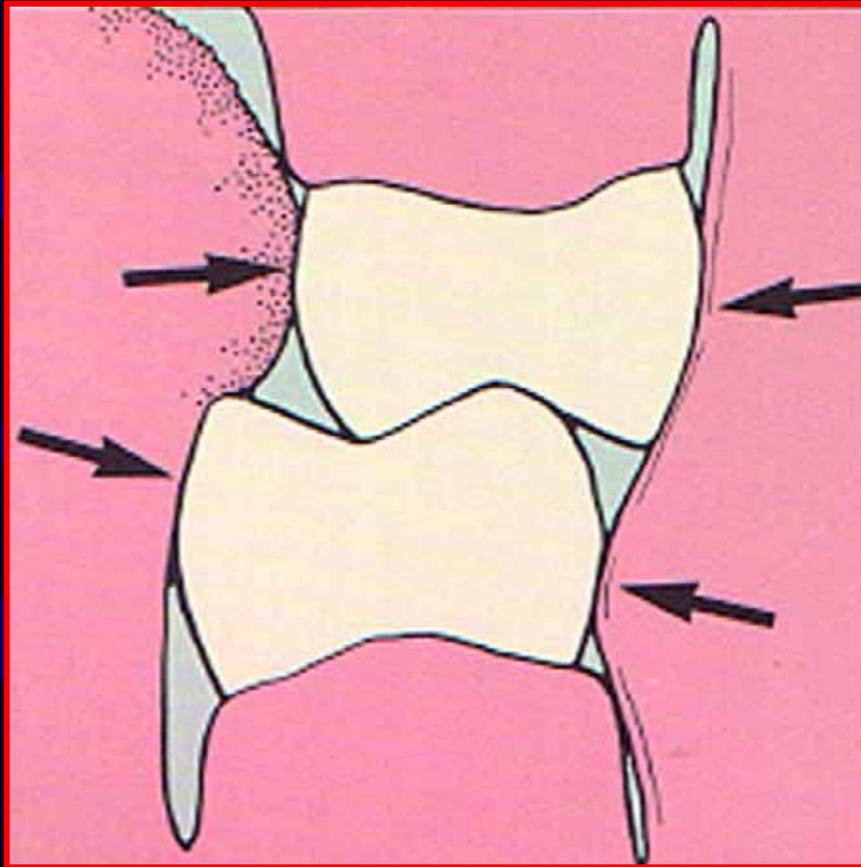
上下の歯の接触の仕方



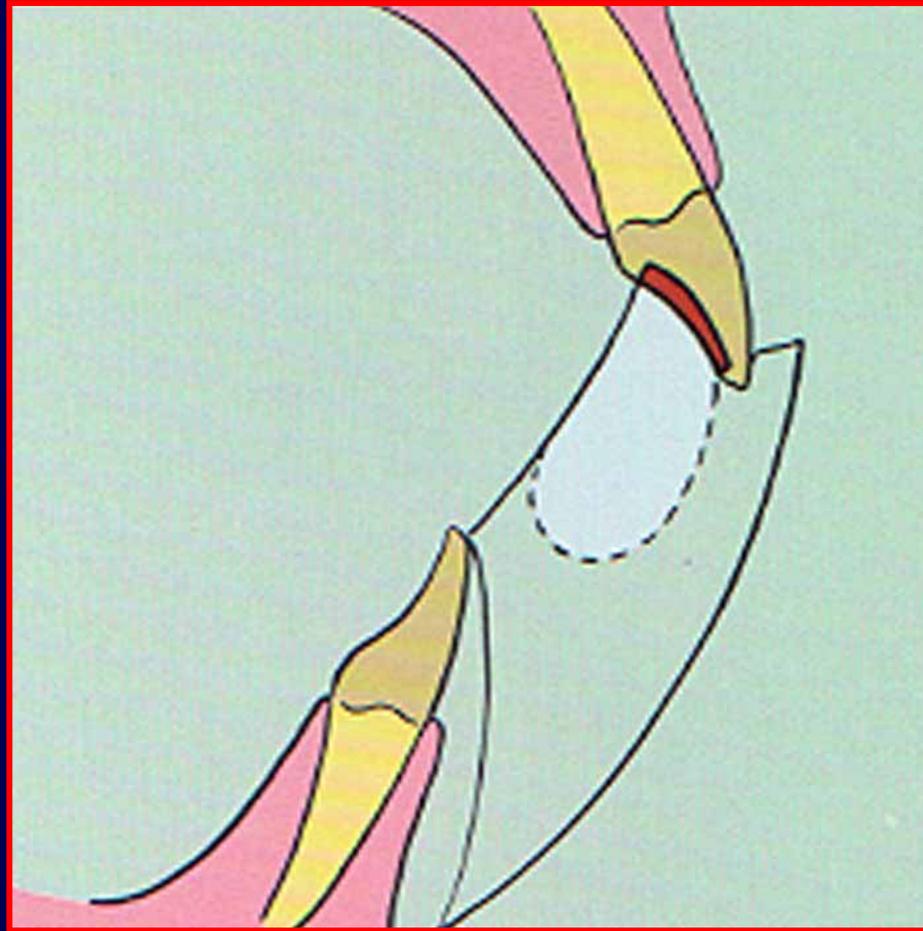
上下の歯に加わる力の方向



歯の並ぶ位置 (ニュートラルゾーン)



スムーズな顎の動き



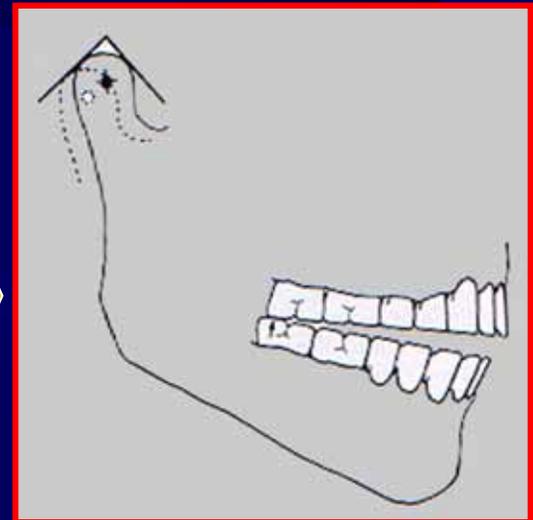
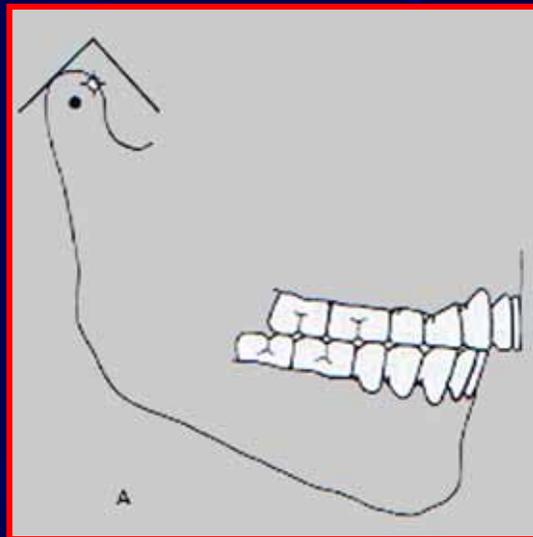
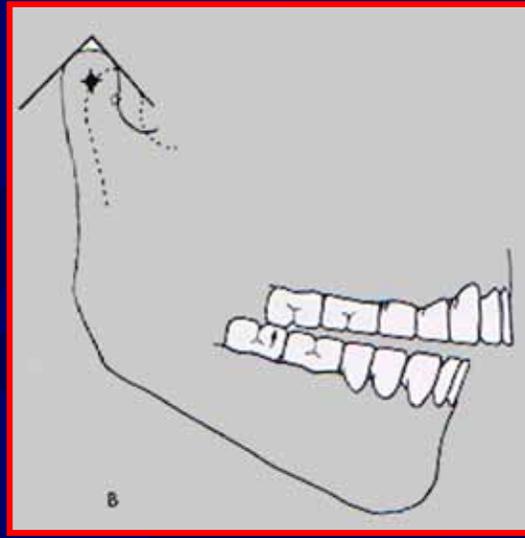
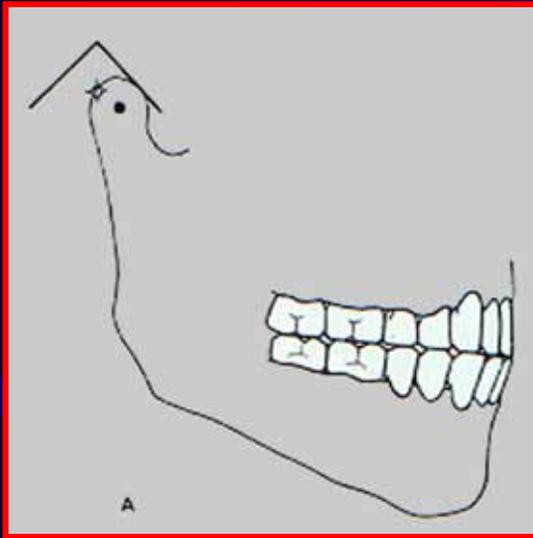
アンテリアガイドランス

体の許容反応

人間は一定の範囲においてかみ合わせのずれをかばう行動をとることが出来る

この許容範囲は潜在記憶(エンGRAM)として存在するがさまざまな要因によりこの許容範囲が縮小されてしまう。

体の許容反応



咬み合わせの不調和が生じる原因

齒列不正



咬む機能未発達



修復物の不具合



顎関節に過剰な負担が加わったとき



円滑な顎の動きが出来ないとき



齒周病



歯が抜けたままになっている



早期接触、ひっかかり

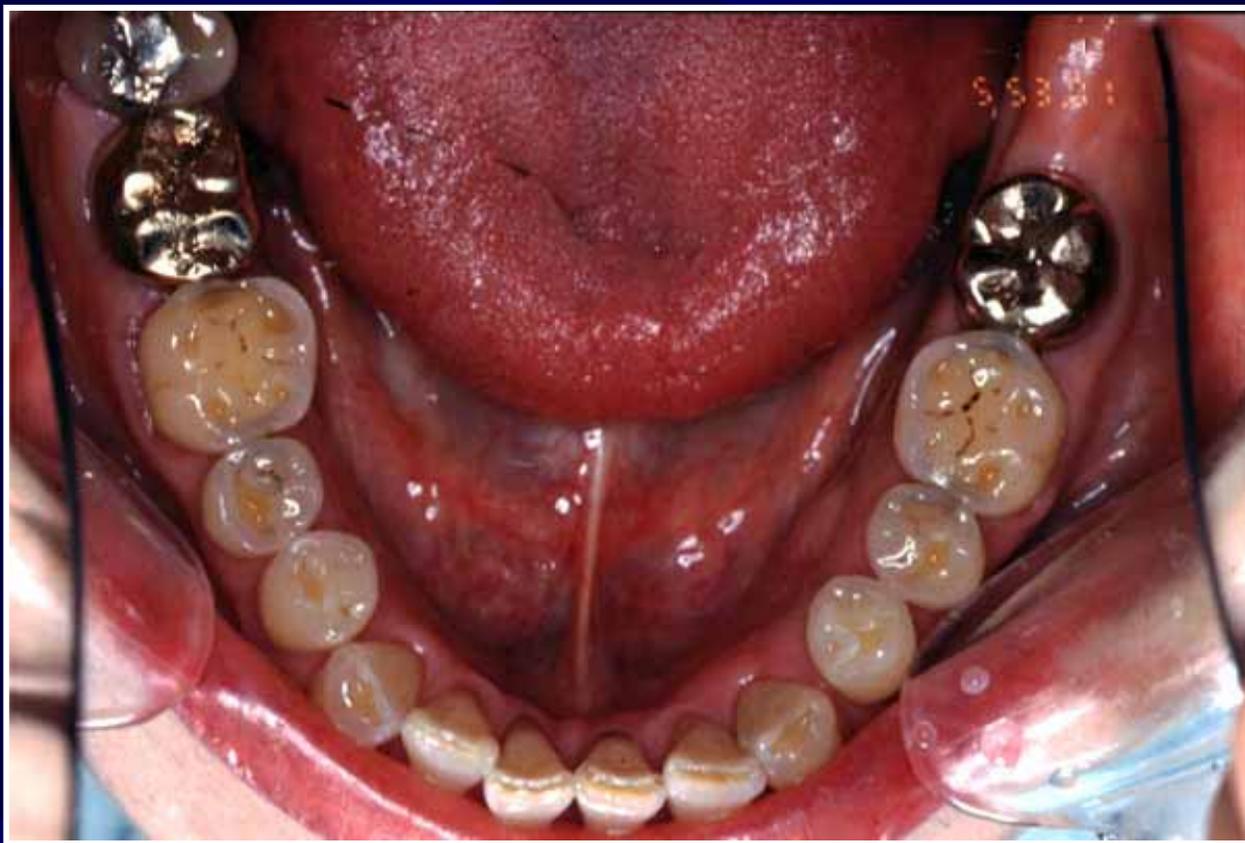


咬み合わせの不調和による生じる症状

歯茎が下がってくる



異常な磨り減り



根元が欠けてくる



口が開かない



偏頭痛が起こる、肩こりがひどくなる



顎の関節部で音がする

かみ合わせが変化する



咬み合わせの治療方法

スプリント療法



咬合調整



咬合調整



矯正治療



修復治療



メンテナンスと管理

1. 安定した歯周組織
2. 咬合調整

メンタルヘルスコントロール

これからの予定

- * 第5回 2月24日日曜日
もう一度自分の歯のように
入れ歯や人工歯根、歯を無くした場合の最新治療法
- * 第6回 3月24日日曜日
信頼できる歯医者さんを探そう
ホームドクターの探し方、付き合い方